

令和5年度 生産性向上支援訓練の活用事例

宮崎運輸株式会社

【会社概要】 一般貨物自動車運送事業（特別積合せ貨物運送事業）

訓練受講のきっかけ（経緯）

従来より機構の生産性向上支援訓練を活用し営業力の強化や職場のチームワーク向上を目的に管理者層向けに研修を実施してきました。物流業界の2024年問題による人員不足への課題感からさらなる人材育成の必要性を感じていたところ、物流事業向けの新規訓練コースの提案があり受講に至りました。

【訓練ニーズ】

- 2024年問題を控え人手不足を補うため人材育成を実施したい
- 物流業の魅力や将来像を考えモチベーション向上を図り長期にわたり働いてもらいたい
- 物流業における管理者・リーダーとしての役割を認識し日々の業務に活かしてもらいたい

訓練の実施状況

訓練の概要

○同コース(6時間×2日 計12時間)を2回、令和5年10月、11月に実施。本社、各支店・営業所の総合職から一般職の24名(12名×2回)が受講。



訓練の様子

○主な内容

- 安全管理及び課題解決
 - ・現状のレベル診断と自己紹介
 - ・問題と課題の定義と考え方
- 物流概論
 - ・物流管理の考え方 ・問題点整理と対策立案
- 荷主・物流事業者間・配送先との業務連携
 - ・物流企業に求められるもの ・コミュニケーションの手法
- 管理改善の手法
 - ・物流管理と改善の視点

※各項目において個人・グループ演習を実施
訓練最後にチーム別発表及び個人別抱負(目標達成に向けた計画)の発表を実施

受講した感想

【受講者の声】

- ・今回の研修受講で普段の業務に対する問題と課題の違いが理解でき課題を解決できる力が少し身についたと思います。
- ・データの数値化、目標設定等を明確に決めることが大事だと思った。
- ・目標をかけた共通認識をもって今後の業務に役立てようと思います。
- ・グループ演習で上の職責の方の考えを聞くことができ、これまで分からなかった方針等が見えてきた。
- ・個人の課題として部下の育成は急務ですが方向性が定まりました。

【事業主の声】

弊社にとって職業訓練は、知識の幅を広げより効率的な考え方を身に付けることで社員各人の生産性の向上を図ることが目的です。しかし運送業はドライバーや事務系社員の大半が各営業拠点の現場勤務であり、なかなか訓練に時間が割けない状況のなか、無理をしてもこの訓練を行うべきか悩みましたが、受講者の成長ぶりや意識の変化をみていると実施して良かったと心から思います。

業歴の長い会社では抽象的な指示や指導が残る傾向にありますが、デジタル化が必須の現代人は具体的に細かな指示をしないと中々行動してくれません。訓練を通じて当社独自の思考やモラル、方針への理解を図り、各人が同じ目的を共有し、能動的に考え動きやすくすること、結果組織力アップに繋がることも訓練目的の一つと考えています。